

学校まるごと図書館 ～図書ボランティアとの協働によるワクワクな挑戦～



| 学校 | 学校運営協議会 | 地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数) | 地域学校協働本部 |
|---------------|------------------------------|---------------------------------------|----------|
| 府中町立 府中小学校 | 府中小学校学校運営協議会 平成30年4月1日 設置 | 地域学校協働活動推進員 0名 0名 地域コーディネーター 2名 1名 | 府小っ子応援団 |



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

・いのちの教育を推進する本校では、読書を通して児童に豊かな心や自尊感情を育みたいと考えていたが、日常的に本を読む児童が少なく、自分の思いをうまく伝えられずにケンカになるケースも見受けられた。
 ・平成30年の集中豪雨により付近の川が氾濫し、災害復旧の過程で校庭には土砂が積まれ、児童は校庭で遊ぶことができず、窓も締め切ったままで、不安な日々が続いた。
 ・少しでも児童を元気づけるために、保護者や地域のボランティアが集まり、図書コーナーづくりの取組がスタートした。

目標や目指す姿(学校)

根っこを育てよう～根を深く！太く！広く！～
 (大人も子供も、わたしがわたしになる学校)

目標や目指す姿(地域)

学校・家庭・地域の“共力”
 ～PTA活動と自発的なボランティア活動の融合～



府中小学校学校運営協議会の特徴

委員の立場や属性等

| | |
|---------------------------------|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> 自治会関係者 | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> 公民館関係者 | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> PTA代表 | <input type="checkbox"/> |
| <input type="checkbox"/> NPO関係者 | など、計 11 名で構成 |
| <input type="checkbox"/> 学校関係者 | 年間平均 3 回程度開催 |

効果的な運営の工夫

・毎年2月(第3回)の学校運営協議会において、当該年度の成果と課題を示しながら、次年度の学校運営方針等について議論し、その結果を踏まえた方針等を教職員とも共有しておくことで、次年度の新学期が始まると同時に、地域の意向を踏まえた連携協働活動を円滑に進めることができている。
 ・毎回、学校運営協議会を午前中に設定し、事前に委員に各クラスの授業を見てもらった上で協議会を始めることで、児童の具体的な様子やクラスの雰囲気踏まえた効果的な議論ができている。



特徴的な取組と成果・効果

取組

学校運営協議会

協議会で学校の教育目標達成に向けた取組の方向性や図書ボランティアのあり方等の議論を行うことで、学校教育目標と地域の実情を踏まえた取組の充実や主体的な活動体制を実現している。また各委員が授業参観することにより、児童の様子を踏まえた効果的な改善策の提案(PDCA)に繋げている。



学校運営協議会の様子

地域学校協働活動

学校の目指す方向を理解した上で、オリジナリティあふれるワクワクな図書室や図書コーナーを整備。定期的にお勧め図書の内容を手作りポップで紹介したり、表紙が見えるように陳列を工夫したり、子供の姿を思い浮かべ、皆でアイデアを出しながら主体的に活動している。



図書ボランティア活動の様子

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

【主体的な取組体制】

・学校運営協議会のもとに、目標や課題を共有した上で実施される「募集によるボランティア活動(図書ボランティア等)」と「PTA班・同好会に所属したボランティア活動(読み聞かせ／お掃除班等)」をうまく融合させ、自発的なボランティア活動(ブックスタンドづくりなど)が展開されるなど、「できるときに、できる人が、できることを」を合言葉に、学校・家庭・地域が“共力”して主体的に取り組むことができる体制を構築している。

成果・効果

○「学校まるごと図書館」により、1つの図書コーナー(いのち本棚(読書センターとしての機能)、劇団の森(子育てセンターとしての機能)、未知との遭遇(情報センターとしての機能)、各学年の学習内容等を踏まえた図書コーナー)を整備した結果、3蜜を避けることができると共に、児童の読書状況に関する数値や自尊感情が向上した。

○各学年ごとに、読書活動と連動させて、同じテーマのもとで、国語・図工・総合的な学習の時間など、科目を横断して学びを深める授業の実践が定着してきた。

○保護者や地域住民も気軽に図書コーナーを利用できることで、地域にもつながりや安心感が生まれたり、学校との連携協働活動を通してやりがいや生きがいを感じるなど、地域と共にある学校づくりができている。

【主な成果指標】

- ・1か月に3冊以上読書をする児童の割合～R4:99.9%(H31:59.6%)
- ・「本を読むのが好き」に肯定的回答の児童割合～R3:91.0%(県平均:78.5%)
- ・「読書で知りたいことが分かったり自分の考えが広まった」に肯定的回答の児童割合～R3:91.7%(県平均:75.4%)
- ・「自分にはよいところがある」に肯定的回答の児童割合～R3:92.4%(県平均:78.4%)

【地域の声】

- ・「子供たちを本の世界に引き寄せるのが私たちの役割。装飾を工夫して児童に喜んでもらえるのがやりがいです。」
- ・「本を読んでもらうことの難しさを感じることがありますが、季節ごとのホールの飾り付けも楽しんでいます。」